

Ⅱ 巻頭言 Ⅱ

目録を読む

石田 肇

図書館からカードボックスが消えて久しく、データ検索用のパソコンが並ぶようになった。検索法は様々で、検索しやすいように配慮されている。しかし陥穽があり、所蔵されているデータに登録されていなければ当然ヒットしない。私は以前、松山市のある記念館で学芸員から所蔵されている資料を見せてもらえなかった経験がある。彼は目録にはあるものの未登録の資料があることを知らなかったのである。

もうひとつの問題はピンポイントでヒットすることである。様々な角度から検索するとかなり解決はするが、ある課題を調べようとすると、面倒に感じることもある。この点、分類が詳しい目録は便利なものである。私の関係している公益財団法人無窮会は戦前から早稲田と深い縁があり、専門図書館は未登録を含めると三十万冊近い和漢の古籍籍を蔵しており、旧蔵者別の目録が刊行されている。宣伝をかねていくつかの目録を紹介しよう。

『真軒先生旧蔵書目録』は三宅真軒の旧蔵で、彼は加賀前田家尊経閣の漢籍の調査をした人物。四部に分類された漢籍

には美本が多く、その蒐書ぶりは森銑三の随筆に詳しい。四部分類であるから分類に照らして探せばよく、叢書のものも索引で探すことができる。一方、『神習文庫図書目録』は井上頼圀旧蔵本で井上家に伝わった神道をはじめ、頼圀収集の『玉麈』など貴重書が多いが、細かく分類された目次に従って目録を読んでゆくと関係書物が芋づる式に出てくることになり便利である。当然のこと索引もついている。

前田家の学事顧問であった織田小覚の『織田文庫図書目録』も幅広い内容で、『神習文庫図書目録』と同様に編纂され、水戸学や崎門学派関係に富む。川合孝太郎の『槲山先生旧蔵書目録』に索引はないが、四部による細かな分類で、そこに和書もいれるという変則的な型式である。小学に関係する貴重書が多い。『平沼文庫図書目録』第二輯は内田遠湖、牧野藻洲、松平天行など諸家の旧蔵書をまとめたもので、旧蔵者を示し索引はないが、神習文庫の分類に依拠している。加藤虎之亮の『天淵文庫蔵書目録』も同様であり、『周礼』関係の書物が豊富である。

早稲田の図書館でも冊子目録や旧蔵者別の目録が多数あり、私はかなり重宝している。旧蔵者別の目録は旧蔵者の学問世界なり嗜好が垣間見え、衣食を節して蒐集したものも多く、かなり実用的である。目録を読んでゆくと、それぞれの本の関係が見えてくることすらある。紙背に徹するというが、目録も同様であり、私はパソコンのみによる検索を危ぶむのである。

(癸巳九月二日 群馬大学名誉教授)